# 目　　次

Ⅰ　提案趣旨 …… 1

Ⅱ　研究主題について …… 1
Ⅲ　研究の構想 …… 2
1　研究仮説
2　研究の基本方針
3　めざす授業像
4　全体構想

Ⅳ　研究の内容 …… 4
1　「道徳的価値の自覚を深める」ための道徳の時間の工夫 …… 4
⑴　「道徳教育」「道徳の時間」についての基礎研修
⑵　道徳の時間の指導方法の工夫
⑶　充実した話合い活動のための工夫
⑷　研究授業の実践
⑸　教材や環境の整備

2　体験活動、特別活動や各教科との関連的指導の工夫 …… 16
⑴　重点指導項目の検討と道徳教育全体計画の作成
⑵　互いのよさを認め合い、高め合う学級経営の充実
⑶　体験活動の充実

3　家庭・地域との連携による道徳教育の充実の工夫 …… 20
⑴　保護者アンケートの実施
⑵　道徳だより等による啓発
⑶　授業参観で道徳授業の公開
⑷　道徳教育に関する講演会の開催
⑸　立腰教育の取組（西那須野中学校区小中一貫教育）
⑹　「ピンクリボン運動」の取組（西那須野中学校区小中一貫教育）

Ⅴ　研究の成果と課題 …… 25
1　成　果
2　課　題

第１分科会（道徳教育）

# 仲間とともによさを高め合う児童をはぐくむ道徳教育
## ～道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の工夫・改善～

那須塩原市立東小学校教諭　　橋本久美子

## Ⅰ　提案趣旨

本校では、道徳の教科化への移行期間であった平成27・28年度の２年間、文部科学省、栃木県教育委員会、那須塩原市教育委員会より「特色ある道徳教育支援事業」の研究指定を受けて研究に取り組んだ。

自分や友達の「よさ」を正しく認識しながら、共に向上していこうとする児童を育てたいと考え、主題を設定した。仲間との学び合いや関わり合いを通して「よさ」を感じながら、よりよい生き方を追究していこうとする児童を育成することをめざして研究を行ってきた。その実践を紹介し、「特別の教科　道徳」を要とする豊かな人間性を育む道徳教育の在り方について提案したい。

## Ⅱ　研究主題について

**「仲間とともによさを高め合う児童をはぐくむ道徳教育」**
**～道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の工夫・改善～**

よ　さ
- 道徳的価値のもつ「よさ」
- 自分自身の「よさ」
- 友達の「よさ」

道徳的価値
- 人間としての在り方や生き方の礎となるもの
- 人間としてよりよく生きるために必要なもの
- 人間らしさを表すもの
- 人間としての心の基本

↓

**人間としてよりよく生きる上で大切なこと**

の

自　覚
自分の状態や能力などをはっきりと知ること

⬇

つまり**「道徳的価値の自覚を深める」**とは…
人間としてよりよく生きる上で大切なことを基に自分自身を見たときに、現在の自分がどのような状況にあるのかを明確に、より深く把握すること

そのためには ⬇ 次の⑴～⑶をおさえておく必要がある。

⑴　**道徳的価値について理解する。**

**【価値理解】**人間としてよりよく生きる上で大切なことを、本当に大切なことだと理解すること。
（例）友達に親切にすると、相手も喜んでくれて自分も気持ちいいなあ。
きまりを守ることは、みんなが困らないために本当に大切なことなんだなあ。

**【人間理解】**道徳的価値は大切ではあるが、実現は難しいこと。
（例）困っている人に親切にしたいけど、声をかけるのは難しいなあ。
みんなで使う場所で、うっかりみんなに迷惑をかけてしまうことがあるなあ。

**【他者理解】**道徳的価値の実現に向けては、多様な感じ方・考え方があること。
（例）今週の目標は「元気よくあいさつをしよう」だから、あいさつをしよう。
友達より大きな声であいさつしたいから、あいさつしよう。

⑵　**自分とのかかわりで道徳的価値を捉えられる。【自己理解】**
道徳的価値を自分事として感じたり考えたりしながら、自分の問題として捉えること。
（例）自分だったら、このときにどうするかなあ。

⑶　**道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われる。**
ねらいとする道徳的価値を視点に自分自身を振り返り、現状認識し、課題を明らかにする。
（例）今まで自由だと思って、自分勝手なことをしてしまったなあ。
親切にするときは、相手がそうしてほしいかも考えるようにしよう。

## Ⅲ　研究の構想

### 1　研究仮説

道徳の時間の指導方法を工夫することによって、児童が問題意識をもち、意欲的に考え、主体的に友達と話し合いながら自分自身を見つめ直すことができれば、道徳的価値のもつ「よさ」や、自分自身の「よさ」、友達の「よさ」を感じながら、ともによりよい生き方を追究していこうとする児童を育成できるだろう。

### 2　研究の基本的方針

①　道徳性検査 HUMANⅢ や hyper-QU を実施し、児童や学級の実態把握と活用について研修する。
②　さまざまな体験活動や他教科との関連を見直し、道徳教育の全体計画別葉の活用を図る。
③　研究主題に迫るための指導法の工夫について、外部講師を招いて授業研究会を行う。
④　教師一人一人が指導法の工夫を重ねながら、日常的に互いに授業を見合って研修する。
⑤　研究主題に沿った環境の整備に努める。

### 3　めざす授業像

○　真剣に考え自分の考えを深めることができる授業
○　「話合い」を通して友達とともに学ぶよさを感じることができる授業

## 4　全体構想

**学校教育目標**
**深く考えられる子**
**思いやりのある子**
**がんばりぬける子**

**児童の実態**
・素直で礼儀正しい児童が多く、仲よく協力しながら活動できる。
・自分の役割に責任をもち、真面目に取り組むことができる。
・言われればできるが、自分で考えて行動しようとする気持ちが弱い。
・より高い目標をもって、実現のために努力しようとする気持ちが弱い。

**道徳教育重点目標**
○目標の実現のために、くじけないで最後まで努力する子どもを育てる。
○人の立場や気持ちを理解し、友達と仲よく助け合い励まし合う子どもを育てる。
○自他の生命の大切さについて考え、生命あるものを大切にできる子どもを育てる。
○自分で考えて、きまりやマナーを守って行動できる子どもを育てる。

**研 究 主 題**
**「仲間とともによさを高め合う児童をはぐくむ道徳教育」**
**～道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の工夫・改善～**

| 研　究　内　容 | | |
|---|---|---|
| 「道徳的価値の自覚を深める」ための道徳の時間の工夫 | 体験活動、特別活動や各教科との関連的指導の工夫 | 家庭・地域との連携による道徳教育の充実 |
| ⑴　「道徳教育」「道徳の時間」の基礎研修<br>⑵　道徳の時間の指導法の工夫<br>⑶　充実した話合い活動の工夫<br>⑷　研究授業を通しての指導法の工夫、改善<br>⑸　授業実践と授業を見合う研修の機会の工夫実施<br>⑹　環境の整備 | ⑴　道徳教育全体計画・別葉の見直しと活用<br>⑵　体験活動の充実<br>⑶　学級活動、各教科等における話合い活動の工夫<br>⑷　互いのよさを認め合い、高め合う学級経営の充実 | ⑴　保護者アンケートの実施<br>⑵　道徳だよりでの啓発<br>⑶　授業参観で道徳授業の公開<br>⑷　あいさつ運動<br>⑸　公民館や地域での行事の協力と児童の参加奨励<br>⑹　道徳教育に関する講演会の実施 |

## Ⅳ　研究の内容

### 1　「道徳的価値の自覚を深める」ための道徳の時間の工夫

#### ⑴　「道徳教育」「道徳の時間」についての基礎研修

##### ア　外部講師による示範授業

第１回（平成27年６月１４日）

主題名　友だちだからできること　　２－⑶信頼・友情
資料名　「大きな絵はがき」（東京書籍）
４年１組　　宇都宮大学教育学部准教授　　和井内良樹先生

【示範授業からの学び】

- 発言する児童が、教師ではなく学級全体を意識して話すように、教師が集団の後方に移動する。
- 教師との一対一ではなく、児童に相互指名させながら、どんどん発言させていく。教師は、意見のキーワードを板書していく。
- 児童の発言に対して、更に詳しい説明を求めたり、揺さぶりをかけたりして考えを深めさせる。
- 一般的に、３年生でこの授業をするとお兄さん派（間違いを教えてあげる）が多く、４年生ではお母さん派（お礼だけで間違いは指摘しない）が多くなる。

↓

発達段階の違い

〔どちらが正しいというわけではなく、どちらも友達のことを考えての意見である。
対立する考えの幅が大きいほど、なぜそうなのかを深く考えられる。〕

【板書について】

中央にテーマ「友だちだからできる」を敢えて見づらい青色で書いた。ここに、児童から出たキーワードを白で書くことで友達はどんな存在なのかをはっきりさせた。

両面使用できる主人公のシルエットを用いて、児童の発言に合わせてどちらの立場の考えかをはっきりさせた。

実物の大きな絵はがきで説明

左右に対立する考えを書き、出てきた考えの根拠のキーワードを記入していった。

第２回（平成27年11月９日）

主題名　気持ちを形に　　２－(2)思いやり・親切
資料名　「三枚の銀貨」（自作教材）
６年２組　　宇都宮大学教育学部准教授　　和井内良樹先生

【示範授業からの学び】

・児童の考えを揺さぶる問い直しや言葉かけにより、思考が深まる。
・３人グループで座席の配置をし、３人で話したこと（自分の意見でなくてもよい）を順番を決めて必ず発表することで、全員が全体の話合いの中で発言できる。発問の度に３人の話合いをするので、自分の考えを表現する場が多い。
・電子黒板を利用しての資料提示で、児童は集中して聴き、内容を理解しやすい。
・本時のテーマを黒板中央に書くことで、何を考えていけばよいのかがぶれない。
・同じ資料でも、扱う学年によって児童・生徒の反応は違ってくる。今回は、金融教育のための資料だが、小学生では、「お金で気持ちを伝えること」には抵抗が大きい。

↓

**発達段階の違い**

【板書について】

テーマを中央に青で書き、導入で出た意見を黄色で書いた。話合いを経てから、赤で「気持ちや心」を記入した。

３人の友人の考えは、場面絵の掲示で視覚的に捉えやすい。

主人公は、表情のないシルエットで表した。

３人の考えは違っても、ベスのためにと考えている方法であることを押さえた。

### イ　外部講師による講話

第１回（平成27年12月７日）

「道徳の授業作り～『特別の教科　道徳』の充実に向けて」
宇都宮大学教育学部准教授　　和井内良樹先生

「自ら考え、学び合う道徳授業」のために

① 学び合い＝**話合い活動を充実**させる
- 物事を多面的・多角的に考える
- 道徳的な判断力（＝考える力）を育てる
- 問題意識をもたせる
- 心情中心の場面発問→テーマ発問へ
- 課題設定と展開後半部とを関連させる
- 一問一答にしない工夫（発問・立ち位置）
- 板書の効果的な活用

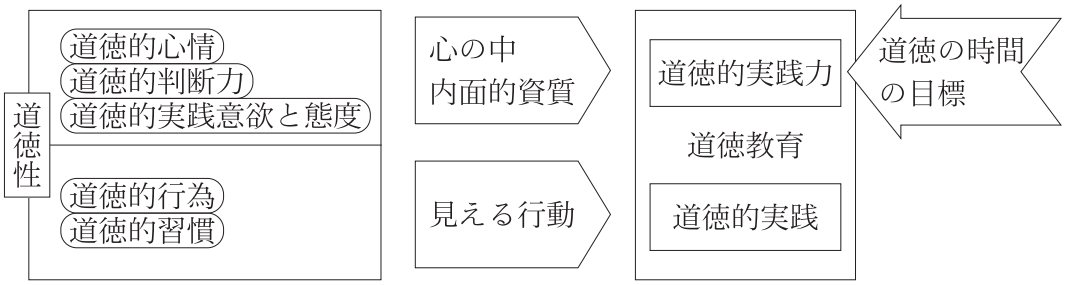
② 発達段階に合わせて学びの形を変えていく
- 他律的 → 自律的
- 共感的 → 批判的
- 教師のリード → 子どもの主体性

③ 教師も子どもと共に考える姿勢をもつ
- 教師も自分の考えを伝える
- 問題意識を共有し、授業を共に創る

第２回（平成28年２月５日）

「『特別の教科　道徳』の実施に向けて準備すべきこと
～『特別の教科　道徳』の基本的理解と授業づくり～」
聖徳大学教授　　吉本　恒幸先生

**道徳性**を構成する諸様相




「道徳の時間」は、道徳的価値を理解し（価値理解）それを自分のこととして捉えて（自己理解）、

①見えない心を育て、きたえる。

②いつか適切な行為を選ぶことを期待する。

価値理解を深める工夫

展開【前段】の終わりに、資料の主人公の思いを整理し、何が明らかになったか（大切か）を確認する。

自分を見つめる工夫

展開【後段】では、ありのままの自分を語ることで新たな生き直しを始める。

⇒カウンセリングと同じ

## (2) 道徳の時間の指導方法の工夫

| | | |
|---|---|---|
| 導入 | 【見つめるⅠ】 | ・主題にかかわる問題意識をもたせ、ねらいとする<br>道徳的価値を方向付ける<br>　アンケート結果の活用<br>　教師の説話<br>　事前に読ませて記入した感想や気になること<br>・資料の内容に興味・関心をもたせる<br>　実物や映像を見せる<br>　新聞記事やニュースの話題<br>　児童の作文や日記 |
| 展開 | 資料提示 | ・教師による読み聞かせ<br>（紙芝居、影絵、人形やペープサートでの劇化、音声や音楽の効果を生かす）<br>・ビデオ、場面絵等の映像を利用（電子黒板の活用）<br>・事前に資料を読ませておく<br>・場面で分けて提示<br>・結末を伏せて提示 |
| | 発　問 | ・児童の意識の流れに沿った発問<br>・考える必然性や切実感のある発問<br>・自由な思考を促す発問<br>・物事を多面的・多角的に考えさせる発問<br>・場面発問<br>・テーマ発問<br>・問題解決型発問 |
| | 話 合 い | ・座席の配置<br>・討議形式<br>・ペアやグループによる話合い<br>・立場を明確にした話合い（名札の活用、座席の移動など）<br>・心情を表す教具を使用した話合い |
| | 書く活動<br>【見つめるⅡ】 | ・必要な時間の確保<br>・ワークシートの工夫<br>　資料と一体型<br>　吹き出し型<br>　自由記述型（ノート形式）<br>　応用型<br>　絵や色で表現<br>　書き出しのヒント |
| | 表現活動 | ・発表したり書いたりする<br>・役割演技<br>・動きやせりふの真似（動作化）<br>・音楽、動作、表情などで自分の考えを表現する<br>・人形やペープサートで演じる<br>・実際の場面の追体験（劇化） |
| | 板　書 | ・思考の流れや順序に沿って順接的に示す<br>・違いや多様さを対比的、構造的に示す<br>・中心部分を浮き立たせる<br>・劇の舞台のようにして生かす<br>・児童と共に創造的につくっていく |
| 終末 | 説　話 | ・教師の体験や願い、感じ方や考え方を語る<br>・日常の生活問題、新聞・テレビ等で取り上げられた問題を盛り込んで話す<br>・教師が自らを語る（人間性がにじみ出る説話） |
| | 【見つめるⅢ】 | ・余韻を残す<br>　児童の活動の映像<br>　関連する詩や名言<br>　振り返りの感想<br>　作文や手紙<br>　歌う |

### ⑶　充実した話合い活動のための工夫

#### ア　座席の配置

学習活動や話合いの仕方に応じて、座席の配置を変える。

【コの字形】

【中央向き】

【３人グループ】

【机なしコの字形】

#### イ　ペアやグループによる話合い

全員が自分の考えを表現する時間を確保することで、全体での発表が難しい児童でも安心して話せるようにする。ワークシートに書いたことの発表だけで終わらせないように、詳しく説明させたり、確認や質問をさせたりする。

道徳の時間以外の学習でも、できるだけ話し合う時間を設けている。

【ペア】

【３人グループ】

【３人グループ】

【４人グループ】

ウ　立場を明確にした話合い

自分がどう考えるか、黒板に名札を貼ったり、席から移動して同じ考えの友達どうしで集まったりして立場を明確にした上での話合いをする。違う立場の友達の考え方を聞いて、自分の考えが変わり、名札を貼る位置を変えたり、他の立場のグループに移動したりすることもあり、考え方の変容が見られる。どうしてそう考えるのかの根拠をしっかり話したり、友達と自分の考え方とを比べながら聞いたりできるように支援する。

【同じ考えの児童で集まる】

【他の立場の考え方を聞いて移動】

エ　教具を活用した話合い

心の葛藤や迷いの微妙な心情を説明しやすくするために、視覚的に分かりやすいハートの矢印や心情割合を表す教具を作成して活用している。ハートの位置や色の割合で、自分の考えやその理由を伝えやすく、また友達との違いも捉えやすいので、他者理解、自己理解を深める手立てとなる。

【ハートの位置で自分の立場を表現して説明する】

【自分の揺れる心情を視覚化して説明する】

### ⑷　研究授業の実践

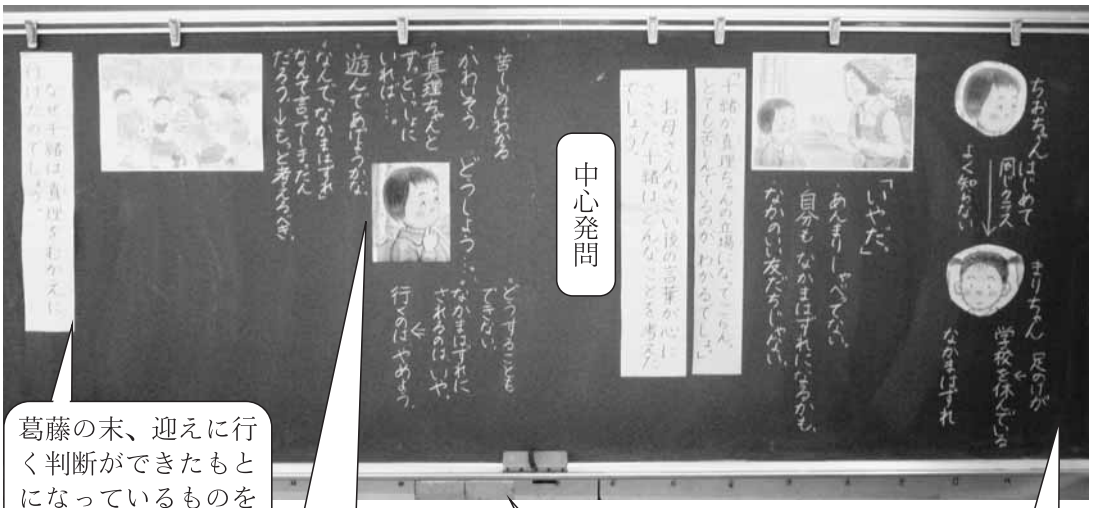
研究授業①

1　主題名　　みんな友だち　〈２－⑶友情・信頼、助け合い〉

2　資料名　　明るくなった友だち（「みんなのどうとく」３年　学研　一部改作）

3　ねらい　　相手の立場になって考え、誰とでも仲良くし、困っている友達を進んで助けようとする心情を育てる。

【板　書】




葛藤の末、迎えに行く判断ができたもとになっているものを考えさせたい

真理のことを思うと、何とかしてあげたい気持ちを上段に書いた。

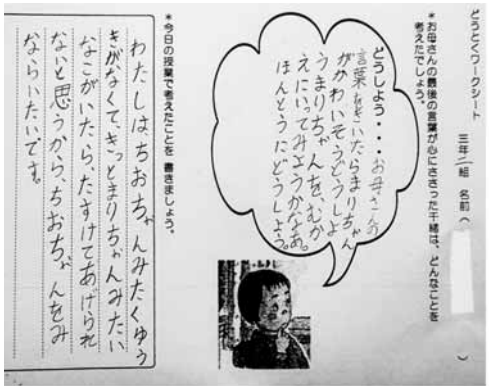
⇔葛藤

自分のことを考えると、迎えに行けない思いを下段に書いた。

結末が推測できるので、敢えて資料名を伏せた。

ペアでの話合いの後、２人で発表をさせた。１人では挙手して発表できない児童でも、２人でなら補い合ってどんな話をしたかを発表できた。

【ワークシート】




「自分は勇気がなくて千緒のようには助けてあげられない」と自分自身を見つめて自己理解できた上で、でも千緒のように行動したいと思う心情が表れている。

研究授業②

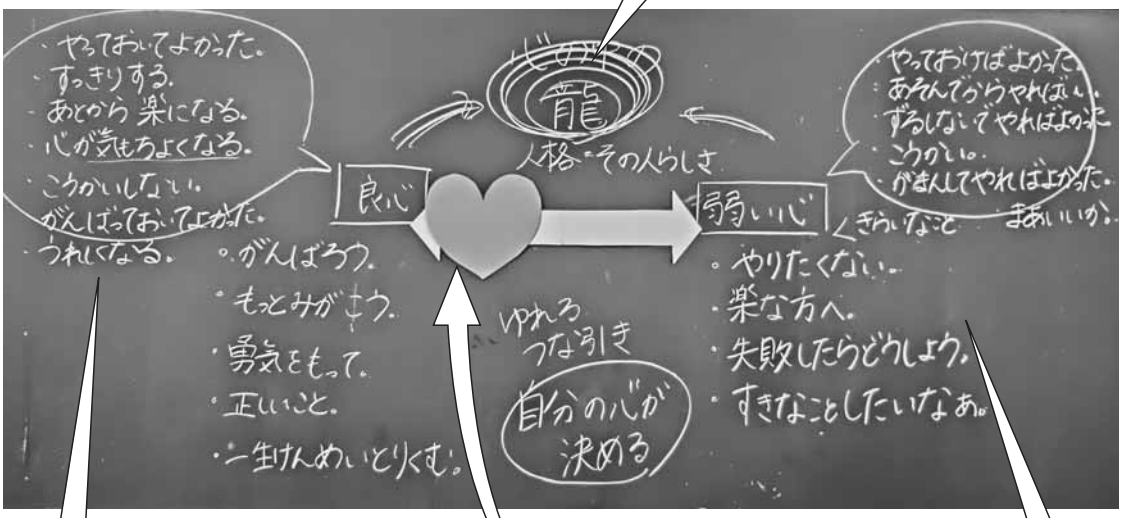
1　主題名　　よりよく生きる　〈１－⑹個性伸長、向上心〉

2　資料名　　心の中の龍（「みんなのどうとく」５年　学研　一部改作）

3　ねらい　　自分の心にある人間的な弱さと良心の存在を自覚し、よりよく生きようとする心情を育てる。

【板　書】

「龍＝人格＝その人らしさ」と捉え、経験によって大きく成長していくようすを、視覚的に分かりやすく多重円で表した。

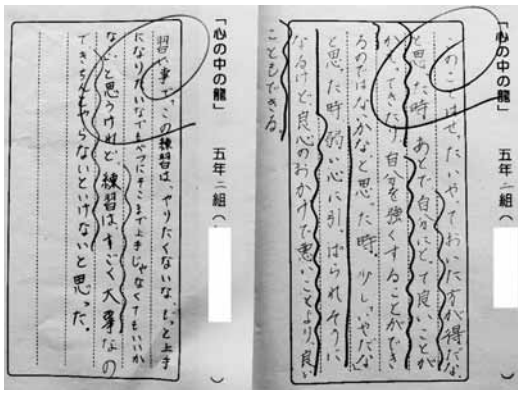



良心とは、いつどのように考える心か、こちらが勝った（克った）時は、どんな気持ちになるかを考えさせた。【価値理解】

葛藤をハートの矢印で表した

弱い心とは、いつどのように考える心か具体的場面を挙げさせて、だれの心にもあることを共感させた。【人間理解】

【ワークシート】



研究授業③

1　主題名　　自分でよく考えて　〈１－(1)節度・節制〉

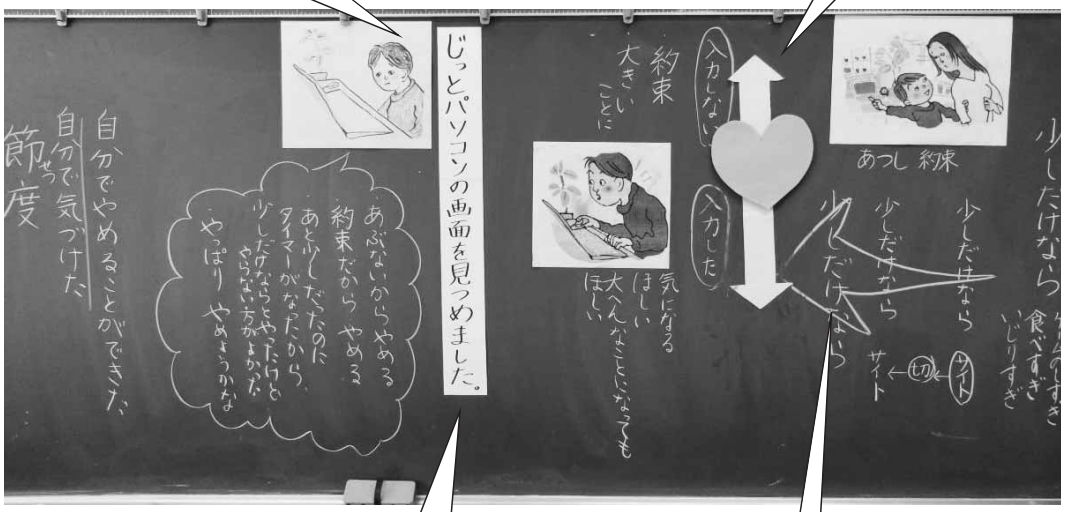
2　資料名　　少しだけなら（「わたしたちの道徳」３・４年　文部科学省）

3　ねらい　　誘惑に負けて行動しようとしたが思いとどまったあつしの心情を考えることを通して、自分でよく考えて行動し、節度ある生活をしようとする態度を育てる。

【板　書】

資料にない場面の絵なので描いた。場面絵があると、考えやすい。

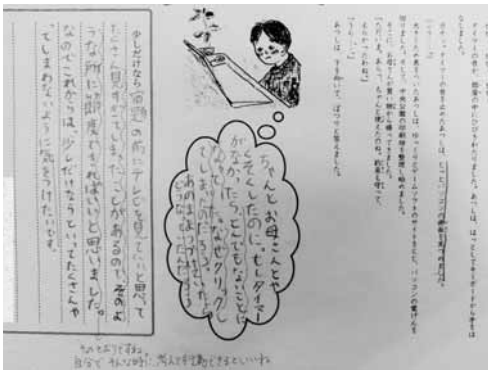
やってはいけないと分かっていても、誘惑に負けそうになる揺れる心があることを捉えさせる。




中心発問で考えさせたい場面を焦点化した。入力せずに思いとどまれたのはなぜかを考えさせた。

「少しだけなら」がだんだん大きくなっていくようすを捉えやすくした。

ペアで話し合ったことを、２人で発表した。



【資料後半部とワークシートを一体化】振り返りの書き出しを「少しだけなら」とし、主題に絡めて自分自身を見つめられるようにした。

研究授業④

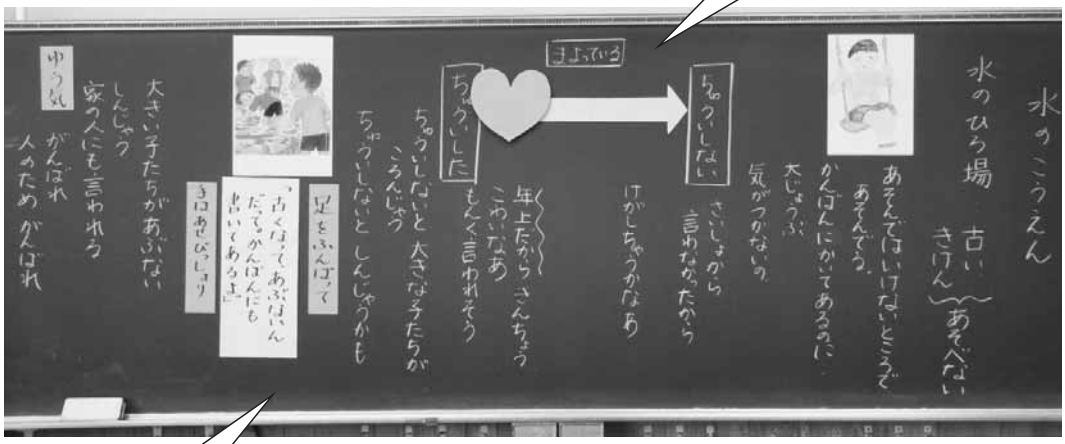
1　主題名　　正しいことは勇気をもって　〈内容項目１－(3)善悪の判断・勇気〉

2　資料名　　水の公園（「みんなのどうとく」２年　学研）

3　ねらい　　よいと思ったことは、心の弱さに負けずに進んで実行しようとする心情を育てる。

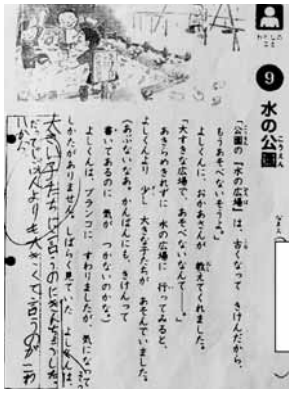
【板　書】

注意した方がいいと思う心と大きな子たちに注意できないという心との葛藤を表した。




よしくんが、どれだけの覚悟で大きい子たちに注意したかが分かるキーワードを、ていねいに説明し正しく捉えさせた。

【同じ立場の友達と集まっての話合い】




【「よし君がどうしたか。」とその根拠を資料の途中に記入するワークシート】

### ⑸　教材や環境の整備

#### ア　教材の作成と保管

作成した場面絵や掲示物、ペープサート、ワークシート等と、授業後の板書の写真を、読み物資料ごとにＡ３サイズのクリアファイルに整理して、保管する。初めは場面絵のみだったが、授業で使用した教材も保管していくことで、他学級や次年度の準備に費やす時間が削減できる。

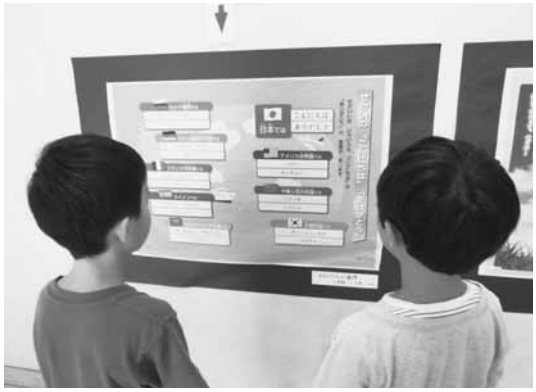
学年ごとに色分けした資料名のタグを付けている

授業後に板書の写真を撮り、道徳コーナーの掲示物等にも使用したり、次年度の授業の参考にしたりする。

#### イ　「わたしたちの道徳」の活用

「わたしたちの道徳」を授業の導入や終末、また教室の掲示物等に使用できるように、低・中・高学年それぞれに、拡大印刷・ラミネート加工し、内容項目別に整理する。

「わたしたちの道徳」の中の詩や写真、名言などを拡大印刷し、廊下や階段の踊り場等の児童の目に触れやすいところに掲示する。



**ウ　道徳コーナーの充実**

各教室に模造紙大の「道徳コーナー」を設置し、道徳の時間で学んだ資料名と話合いで出てきたキーワード等をハート形のピンクの色画用紙に書いて掲示する。また、児童のワークシートや板書の写真、場面絵なども掲示することで児童の目に触れ、日常生活の中での実践化につながることをねらっている。

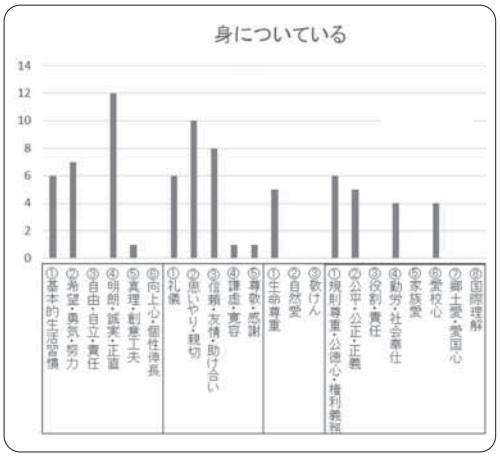
クラスの集合写真や友達のよさを認め合う掲示物等、各学級での工夫が見られ、教員同士もこれを見合うことで、学び合うことができる。

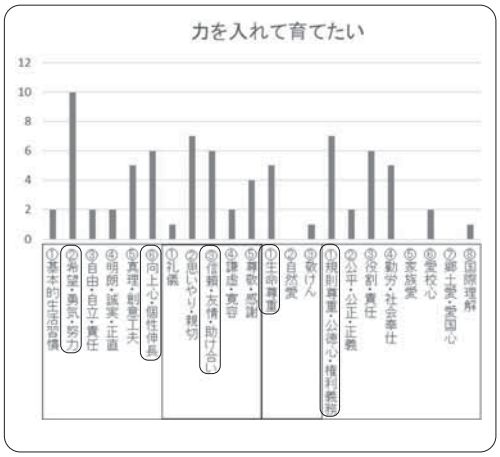
## 2　体験活動、特別活動や各教科との関連的指導の工夫

### ⑴　重点指導項目の検討と道徳教育全体計画の作成

教師が捉えた児童の実態や保護者の願い、児童のアンケート結果等を照らし合わせて、重点指導項目を決定し、道徳教育全体計画、別葉Ⅰ・Ⅱ、道徳の時間の年間指導計画等の見直しをして、他教科や教育活動全体と連携しながら道徳教育を推進できるようにした。

#### ア　教師が捉えた児童の実態




#### イ　保護者の願い

保護者へのアンケートの結果、学校教育で育てて欲しいと願っている内容項目は次のとおりであった。

| 【低学年】 | 【中学年】 | 【高学年】 |
|---|---|---|
| 1　友情・信頼 | 1　友情・信頼 | 1　勇気・努力 |
| 2　公徳心・規則の尊重 | 2　公徳心・規則の尊重 | 2　友情・信頼 |
| 3　愛校心 | 3　愛校心 | 3　役割・責任 |

#### ウ　「道徳アンケート」による児童の実態

児童の道徳に関する意識の実態調査のために「道徳アンケート」（高知県教育委員会東部教育事務所ホームページよりダウンロードして活用）を実施した。27項目の質問の中で、肯定的評価（そう思う・どちらかといえばそう思う）がたいへん高かった。その中で９割に満たなかったのは、次の項目である。（第１回平成27年７月実施結果より）

| | |
|---|---|
| 「今住んでいる地域の行事やボランティア活動に参加している」 | 80% |
| 「勉強する時間を決めて、実行している」 | 81% |
| 「テレビを見る時間やゲームをする時間など、ルールを家の人と決めている」 | 83% |
| 「自分にはよいところがあると思う」 | 86% |
| 「難しいことでも、失敗をおそれないでちょうせんしている」 | 86% |

自尊感情に関するものが他よりも低かった。「個性の伸長」は、前指導要領では、１・２年にはないが、新指導要領では新たに新設された。本校児童の実態を見ても、他に比べると自信のなさ、自尊感情の低さが見られたので、重点内容項目とした。

#### エ　児童の実態把握

２年間で２回、新道徳性検査『HUMANⅢ』（図書文化社）を実施した（２～６年）。各学級の内容項目別の分析も出るので、この結果を各授業で参考にしている。

# 行事等のねらいと関連する内容項目一覧表

◎関連する主な内容項目　○関連する内容項目

| 月 | 日 | 曜 | 行事名 | 学年 | 1 自分自身に関すること | | | | | | | 2 他の人とのかかわりに関すること | | | | | 3自然や崇高なものとのかかわりに関すること | | | 4 集団や社会とのかかわりに関すること | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 基本的な生活習慣節度節制 | 希望・努力 | 勤勉 | 善悪の判断勇気 | 自由・自律責任 | 正直・誠実明朗 | 真理愛創意工夫 | 個性の伸長 | 礼儀 | 思いや り・親切 | 信頼友情 | 寛容・虚謙 | 尊敬・謝感 | 生命尊重 | 自然愛・動植物愛護 | 畏敬の念 | 規則の尊重公徳心 | 公正公平・正義 | 役割と責任の自覚 | 勤労 | 家族愛 | 愛校心 | 郷土愛 | 国際理解 |
| 4 | 8 | 金 | 新任式・前期始業式 | 2～6 | | ◎ | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| | 11 | 月 | 入学式準備 | 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ○ | | | | |
| | 12 | 火 | 入学式 | 全 | | | | | | | | | ◎ | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13 | 水 | 通学班編成 | 全 | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | ○ | | | | | | | |
| | 14～18 | | 体位測定 | 全 | ◎ | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | 15 | 金 | 開こん記念行事 | 全 | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | ◎ | |
| | 18 | 月 | 避難訓練 | 全 | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | ○ | | | | | | | |
| | 22 | 金 | 離任式 | 2～6 | | | | | | | | | ○ | | | | ◎ | | | | | | | | | | | |
| 5 | 9～ | | 保健関係各種検診 | 全 | ◎ | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | 16～18 | 月～水 | 海浜自然教室 | 5 | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | | ◎ | | ◎ | | ○ | | | | | |
| | 25 | 水 | 運動会総合練習 | 全 | | ◎ | | | | | | | | | ○ | | | | | | | ○ | ○ | | | | | |
| | 27 | 金 | 運動会準備 | 5・6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ○ | | | | |
| | 28 | 土 | 運動会 | 全 | | ◎ | | | | | | | | | ○ | | | | | | | ○ | ◎ | | | | | |
| 6 | 2 | 木 | プール清掃 | 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ◎ | | | | |
| | 7～9 | 火～木 | 新体力テスト | 全 | ○ | | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 22～ | | クリーンタイム（4回） | 全 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | ○ | | |
| | 30 | 木 | 七夕集会準備 | 全 | | | | | | | | | | ◎ | ○ | | | | | | | | ○ | | | | | |
| 7 | 1 | 金 | 七夕集会 | 全 | | | | | | | | | | ◎ | ○ | | | | | | | | ○ | | | | | |
| 9 | 1 | 木 | 防犯訓練 | 全 | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | ○ | | | | | | | |
| | 29 | 木 | ミュージカル鑑賞会 | 全 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| 10 | 4 | 火 | 遠足（1～4年） | 1～4 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | 7 | 金 | 前期終業式 | 全 | ◎ | ○ | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13 | 木 | 後期始業式 | 全 | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 18～19 | 火～水 | 修学旅行 | 6 | | | | | ○ | | | | | | ○ | | | | | | ◎ | | ○ | | | | | |
| | 24 | 月 | スポーツ集会 | 全 | | | | | | ○ | | | | | ◎ | | | | | | | ○ | | | | ○ | | |
| | 28 | 金 | GCD | 該当 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | ◎ |
| 11 | 9 | 水 | 持久走大会 | 全 | | ◎ | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 24 | 火 | スキー教室 | 5・6 | | ◎ | | | | | | | | | | | ○ | | ○ | | | | | | | | | |
| | 27 | 金 | GCD | 該当 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | ◎ |
| 3 | 3 | 金 | 6年生を送る会 | 全 | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | | | ○ | | | ○ | | |
| | 6・10 | 月・金 | 呼びかけ練習 | 全 | | ○ | | | | | | | ○ | | | | ◎ | | | | | | | | | | | |
| | 8 | 水 | 卒業式会場準備 | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ○ | | | | |
| | 14 | 火 | 卒業式予行・6年修業式 | 全 | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | | | | | | ○ | | |
| | 16 | 木 | 大掃除 | 全 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | ○ | | |
| | 17 | 金 | 卒業式 | 全 | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | | | | | | ○ | | |
| | 24 | 金 | 修業式 | 1～5 | ◎ | ○ | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |

重点内容項目

### ⑵　互いのよさを認め合い、高め合う学級経営の充実

学級経営計画の他に、「道徳教育の学級における指導計画」を作成している。道徳の時間をはじめ、様々な学習活動や学級活動などにおいて、自分の考えを臆することなく表現することのできる学級の雰囲気づくりが大切である。お互いのよさを認め合い、一人一人が居心地のよい学級とするために、次のような取組をしている。

【hyper-QU の結果から】

那須塩原市では、３年生以上の全クラスで年に２回（５月、10月）、hyper-QU を実施している。hyper-QU は、学校生活における児童生徒および学級集団の意欲や満足度を質問紙によって測定し、結果を分析することで、児童の人間関係を把握したり全体指導に生かしたりすることができる。

学年でアセスメントシートを作成して、支援に取り組んでいる。

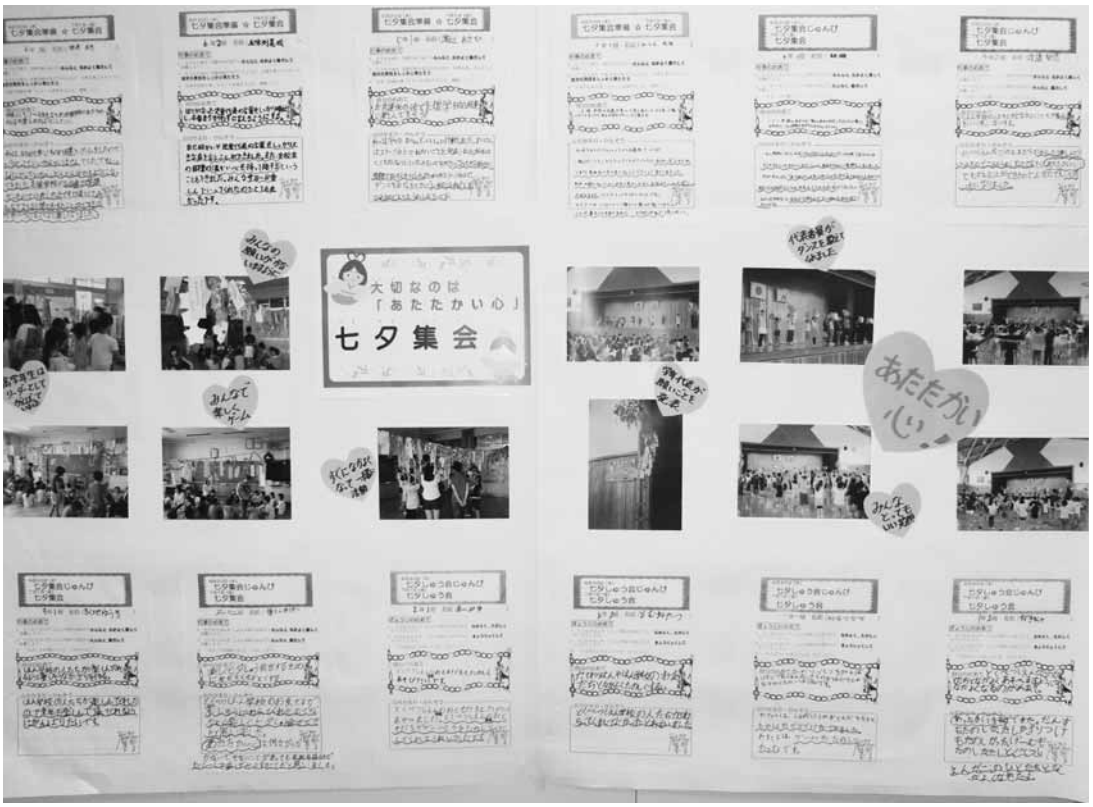
【自分のよさを書いたカードを学年全員で貼って掲示】

【１分間スピーチテーマ「おとなりさんのいいところ」】

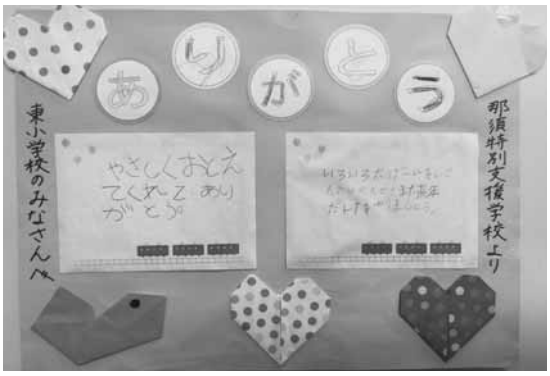
【「わたしたちの道徳」を活用】

### ⑶　体験活動の充実

年間の学校行事に関連のある内容項目を、一覧表にまとめて活用した。行事の前には、事前指導、事後指導で内容項目を意識した指導をした。また、全校生がかかわる大きな行事では、「行事のめあて・振り返りカード」を活用して、体験する中での道徳的価値を意識させた。




**【七夕集会のめあて・振り返りカード】**




**【那須特別支援学校の友達からのお礼の手紙】**

我が校の伝統的行事の一つに、那須特別支援学校との交流の機会でもある「七夕集会」がある。

縦割りの児童会班ごとに、支援学校の友達と一緒に七夕飾りを飾ったり、ゲームを楽しんだり、全員で集まってダンス（支援学校の運動会で踊ったもの）を踊ったりする活動である。

車椅子の友達や心身に障害のある友達との交流であるが、児童は手をつなぎ、いろいろ話しかけながら、楽しんでいる。

この行事は、思いやり・親切、信頼・友情、高学年では役割と責任の自覚を意識しためあてをもって、道徳的実践の場となる。

そして、道徳の時間に「思いやり・親切」の内容項目での学習の時には、この行事で体験した思いやりの心を関連づけて指導することができる。

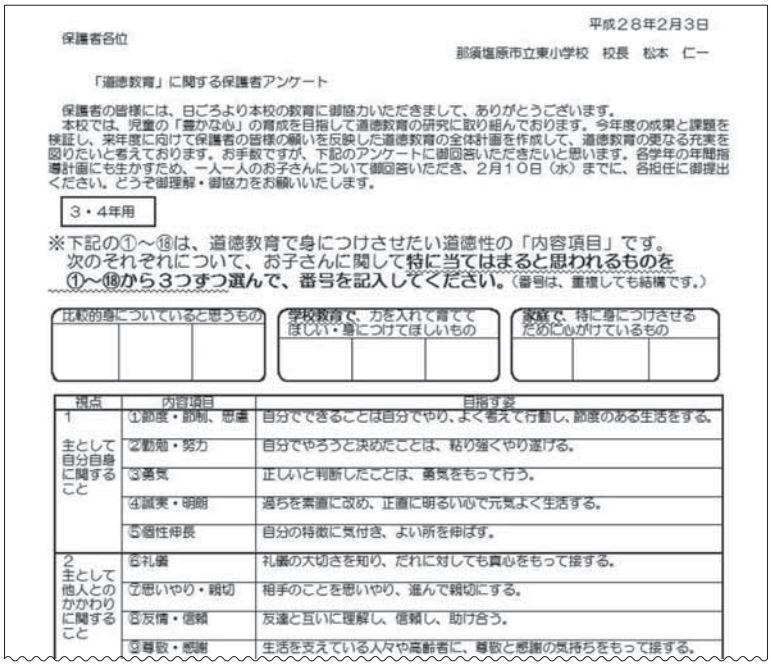
## 3　家庭・地域との連携による道徳教育の充実の工夫

学校における道徳教育の取組についての情報を家庭・地域に発信することによって、理解や関心を高め、協力してもらうことで、児童の道徳性の育成に大きな効果が得られると考える。そこで、家庭・地域との連携や啓発の方法を工夫する。

### ⑴　保護者アンケートの実施

保護者に「道徳教育に関するアンケート」を実施することにより、保護者の道徳教育への関心を高めるとともに、学校に期待する部分と家庭で力を入れて育てる部分との意識の確認をした。

この結果も参考にして、道徳教育の重点内容項目を決定した。



平成２８年２月３日

保護者各位

那須塩原市立東小学校　校長　松本　仁一

「道徳教育」に関する保護者アンケート

保護者の皆様には、日ごろより本校の教育に御協力いただきまして、ありがとうございます。
本校では、児童の「豊かな心」の育成を目指して道徳教育の研究に取り組んでおります。今年度の成果と課題を検証し、来年度に向けて保護者の皆様の願いを反映した道徳教育の全体計画を作成して、道徳教育の更なる充実を図りたいと考えております。お手数ですが、下記のアンケートに御回答いただきたいと思います。各学年の年間指導計画にも生かすため、一人一人のお子さんについて御回答いただき、２月１０日（水）までに、各担任に御提出ください。どうぞ御理解・御協力をお願いいたします。

３・４年用

※下記の①～⑱は、道徳教育で身につけさせたい道徳性の「内容項目」です。
次のそれぞれについて、お子さんに関して**特に当てはまると思われるものを①～⑱から３つずつ選んで、番号を記入してください。**（番号は、重複しても結構です。）

| 比較的身についていると思うもの | | | 学校教育で、力を入れて育ててほしい・身につけてほしいもの | | | 家庭で、特に身につけさせるために心がけているもの | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | |

| 視点 | 内容項目 | 目指す姿 |
|---|---|---|
| 1 主として自分自身に関すること | ①節度・節制、思慮 | 自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする。 |
| | ②勤勉・努力 | 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。 |
| | ③勇気 | 正しいと判断したことは、勇気をもって行う。 |
| | ④誠実・明朗 | 過ちを素直に改め、正直に明るい心で元気よく生活する。 |
| | ⑤個性伸長 | 自分の特徴に気付き、よい所を伸ばす。 |
| 2 主として他人とのかかわりに関すること | ⑥礼儀 | 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。 |
| | ⑦思いやり・親切 | 相手のことを思いやり、進んで親切にする。 |
| | ⑧友情・信頼 | 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。 |
| | ⑨尊敬・感謝 | 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。 |

「保護者アンケートの結果から」

**身に付いていると思うもの**

| 【低学年】 | 【中学年】 | 【高学年】 |
|---|---|---|
| 1　善悪の判断 | 1　思いやり・親切 | 1　誠実・明朗 |
| 2　勤勉努力 | 2　節度・節制 | 2　思いやり・親切 |
| 3　友情・信頼 | 3　友情・信頼 | 3　礼儀 |

**本校児童の「よさ」**

**学校教育で育てて欲しいもの**

【低学年】
1　友情・信頼
2　公徳心・規則の尊重
3　愛校心

【中学年】
1　友情・信頼
2　公徳心・規則の尊重
3　愛校心

【高学年】
1　勇気・努力
2　友情・信頼
3　役割・責任

**家庭で心がけているもの**

【低学年】
1　誠実・明朗
2　礼儀
3　生活習慣・節度

【中学年】
1　節度・節制
2　礼儀
3　家族愛

【高学年】
1　思いやり・親切
2　家族愛
3　節度・節制

**道徳教育重点内容に反映**　　**家庭教育の啓発**

### ⑵　道徳だより等による啓発

学校の道徳教育への取組や道徳の時間の様子、日常生活の中での心温まる実話等について、道徳だより「心のかけはし」などを通じて家庭にお知らせし、啓発に努めている。

【道徳だより「心のかけはし」】

道徳だより
心のかけはし
那須塩原市立東小学校
平成２７年７月１７日　NO．２

道徳の授業の参観、ありがとうございました

これまでも、学校公開の日に道徳の授業を行っていましたが、今年度は授業参観に全学級で道徳を行いました。上学年・下学年と２日間に分かれていることもあり、「道徳の授業をゆっくり見て、一緒に考える機会になりました。」という感想も多数お寄せいただきました。どの学級でも、子どもたちがじっくりと考えたり、自分だったらどうだろうと迷ったり、友達と話し合ったりする姿が見ていただけたことと思います。

保護者の皆様には、子どもたちの道徳に出た「私たちの道徳」の保護者コメント欄に御記入いただいたり、授業の感想や御意見をお寄せいただいたりと、大変お世話になりました。授業の様子や保護者の皆様からの感想を一部御紹介いたします。

１年２組「ぶんちょうになったマーくん」（節度・節制、自立）

♡家庭でも、生活リズムを整え、規則正しい生活を送ることの大切さを親子で話し合いながら、夏休みを元気に過ごしたいと思います。
♡今日のように、自分だけで考える、グループで考える、クラスみんなで考えることで、いろんな考え方、感じ方があることを知っていってほしいです。

２年１組「水の公園」（勇気）

♡とてもよい、生活に役立つ授業内容だったと思います。他の人の立場に立っていろいろ考えてみる、大切な事ですね。
♡今日の内容は「勇気」でしたが、大人でもなかなか行動に移すことは難しいものです。子供の素直な感性で、感じたことを行動に移せるようになってもらいたいものですね。

３年１組「なかよしポスト」（愛校心）

♡当たり前と思える判断が、成長途中の３年生には難しいんだということを改めて感じ、道徳という授業の重要さに気づきました。
♡道徳は、答えが一つではないところがおもしろいですね。そして、いろいろと考えさせられた授業でした。考える力や相手を思いやる気持ち…もっともっと道徳で成長してほしいなと思います。

道徳教育の取組や体験活動のようすを載せて、ホームページでも公開している。

【学校だより　Ｈ28．7月号】

道徳の教育の推進

昨年度から進めている道徳教育の研究も大きく進んでいます。6月は宇都宮大学の先生をお迎えし4年生と2年生で2回研究授業を行ったほか、船橋市の教務主任会の視察のために授業をお見せしました。7月の授業参観は全クラス道徳の授業を行う予定です。

学校教育のすべての場面で道徳教育は行われますが、その中核となるのが道徳の授業です。各学年の発達段階や実態に応じて、「考え、話し合い、深めていく道徳」を目指しています。

道徳的価値の自覚を深め実践力をつけるのが目的ですが、子供たちはそんなに簡単に道徳力をつけられるわけではありません。感情に流されたり、決まりを守れなかったり、友達の気に触ることを言ってしまったりという失敗を繰り返して成長していきます。人の過ちを非難したり、できない自分を慰めたりするのではなく、自分を見つめ、人との関わりを考え、将来の自分を創り上げられる道徳を目指したいと考えています。どうぞ御家庭でもお子さんを温かく見守ってあげてください。

那須特別支援学校との交流会

東小は毎年支援学校のお友達と交流をしています。今年は6月21日（火）にやしおのぞみ学級のみんなで支援学校へ出向き、交流をしてきました。

また、7月1日（金）には支援学校のお友達が東小に来て、全校生七夕集会を楽しむ予定です。支援学校のお友達を迎え、楽しく過ごしてもらおうと今からみんなで準備しています。

愛書館ボランティア「おひさま」　お楽しみ会

6月24日（金）の昼休みに「おひさま」のみなさんによるお楽しみ会が多目的ホールで行われました。ちょっとしたゲームをして和んだところで、ペープサート「へっこきよめさま」を披露してくださいました。お話も絵もとても上手で、子供たちはもちろん、一緒に見ていた私もすっかり引き込まれてしまいました。また見てみたいとみんな思ったことでしょう。おまけにプレゼントまでいただき参加した子たちは大満足でした。

民生委員、保護司連絡会
東小学校区学校安全連絡会

6月23日（木）毎年行っている民生委員さんとの連絡会に今年から保護司さんも加わり、児童の授業の様子を見ていただいたり、地域の情報を交換したりしました。全クラスの授業の様子を見ていただいて、「先生方が工夫した授業をし、子供たちはいきいきと授業に参加している。」と褒めていただきました。

また、同じ日の夕方、第1回学校安全連絡会を行いました。学校関係者の他に各地区の自治会長さん、中央地区コミュニティ代表、西那須野公民館長、西那須野交番所長、駅西口商店会長、民生委員代表そして今回から交通指導員さんの出席もいただき、子供たちの登下校の様子、地域の安全について話し合いました。

東小の児童は、こんなにたくさんの人々に見守られ生活しているということに改めて感謝しました。全国的に見ても、残念ながら子供たちの事件事故は決して減ってはいません。これからも、学校と保護者と地域のみなさんが一緒になって安全確保に努めたいです。

7月8月の予定

1日(金)　七夕集会
2日(土)　教育懇談会（黒磯文化会館13:30～）
4日(月)　全校漢字テスト
5日(火)　2年生活科町探検
6日(水)　授業参観（上学年　のぞみ　やしお）
7日(木)　授業参観（下学年）
8日(金)　食に関する指導3年
　　1年生活科校外学習
9日(土)10日(日)那須地区小学校大会
　　女バス（東小）
　　バレー（にしなすの運動公園）
　　男バス（東小）10日～
11日(月)～祝(火)　夏期運動
11日(月)　全校計算テスト　あんしん家訪問
12日(火)　救急処置法講習会　15:45～多目
18日(水)　食に関する指導（特、4年）
16日(土)　那須地区小学校大会　剣道
18日(月)　海の日
20日(水)　夏休み前集会
21日(木)～8月28日(日)　夏休み
28日(木)　那須地区小学校大会サッカー（青木）
30日(土)　ふれあいまつり鼓笛パレード
8月
29日(月)　夏休み明け朝会　身体計測6年特学
30日(火)　身体計測5年
31日(水)　身体計測4年

心の教育として、道徳教育と関連の深い取組についてもお知らせしている。

【人権教育だより　Ｈ28．6月号】

人権だより　こころの花
那須塩原市立東小学校
平成28年6月20日

本校でも、子ども達の発達段階に応じて、人権について指導しています。これからの人権学習は「人（友達）との出会い」「自分たちにできることを進んで行う」ということが大切だと考えます。

子ども達は、「いじめや差別がいけない」ということ頭では理解しています。でも、本当に子ども達が知りたいのは、「差別って何？」「差別はなぜ起こるの？」「差別はどうしたらなくせるの？」ということではないでしょうか？

【本校での主な取り組み】
★校内人権週間（年2回）
　第1回　6月13日（月）～　6月17日（金）まで
　第2回　11月21日（月）～11月25日（金）まで

○第1回校内人権週間　重点指導：「ありがとう」

・「ありがとう」のカードを各クラスで掲示し、「ありがとう」を伝え合うことに取り組みました。「ありがとう」は、感謝を伝える言葉ですが、相手を意識した上で発せられるものです。周囲の友達や大人に支えられて、自分が幸せに生活できていること、それをお互い伝え合うことで、人間関係がさらに円滑になることに気付いていってほしいと考えます。楽しいクラス、学校作りの基盤です。

・6／15（水）「人権集会」・・・代表委員会と集会委員会が計画・進行
①校長先生のお話
　『「人権」とは、自分ではなく、自分の周りの人の権利を大切にすることです。みなさんは小学生なので、心や身体が成長してきています。そして私たちは言葉でコミュニケーションをとることができます。相手のことを思いやる第一歩は「お友達を呼び捨てにしないこと」です。』とお話をいただきました。
②代表委員会による「ピンクのリボン説明会」
　ピンクのリボンについて説明してくれました。最後に全校生で下記の誓いの言葉を復唱しました。
③手話「友達になるために」
　昨年度から、本校で「いじめ撲滅」を目指し全校生で大切にしている歌です。1年生も手話を交えて大きな口を開けて歌っていました。もう、りっぱな東っ子です。
④各クラスのめあて発表（裏面に掲載）
⑤人権に関するQ×クイズ

人権作文・人権ポスターの募集◇
夏休みの課題として募集します。詳細は後日お知らせします。

### ⑶　授業参観で道徳授業の公開

本校では授業参観を、年に３回実施している。この中で唯一、上学年と下学年に分けている７月の授業参観で、全学級が道徳の授業を公開した。これまでも、学級ごとに年に一度は授業参観や学校公開日に道徳の授業を公開していたが、全学級で同時期に道徳の授業を実施するのは、初の試みであった。２日間に分かれているので、複数学年に児童がいる保護者も比較的落ち着いて授業を参観できた。保護者からの感想には、次のような声が多かった。

道徳の授業をゆっくり見て、一緒に考える機会になりました。しっかりと考えている様子が見られました。

当たり前と思える判断が、成長途中の子どもには難しいんだということを改めて感じ、道徳という授業の重要さに気づきました。

道徳の授業というのは、物事の善し悪しが決まっているイメージでしたが、今日の授業を見て、答えが一つではない道徳がとてもよいと思いました。

今日のように、自分だけで考える、グループで考える、クラスみんなで考えることで、いろんな考え方、感じ方があることを知っていってほしいです。

保護者が多数参観しているので、保護者にも参加してもらう場面を設けた学級もあった。

【親子で役割演技】１年生

私の考えを聞いてね。

【考えを保護者に伝える】６年生

お母さんは、どう思う？

【親子での話合い】４年生

### ⑷　道徳教育に関する講演会の開催

「命を大切にする子どもを育てる
　　～今、私たちがなすべきこと～」
聖徳大学教授　　吉本　恒幸先生

２月の授業参観日に合わせて、保護者対象の道徳教育に関する講演会を開催した。授業参観後、学年部会前という時間帯であったが、100名近い保護者の参加があった。

吉本先生は、御自身が東京都内で校長先生をしていたときのエピソードなども交えながら、子どもたちに命の大切さを教えていく必要性について詳しく話してくださった。当日、生命の大切さについて考える道徳の授業を行っていた２年生のお家の方からの手紙を嬉しそうに読む子どもたちの様子や各教室の道徳コーナーなどについても、分かりやすく話してくださった。

参加した保護者からは、「参加してよかった。」「とてもいいお話だった。」と好評で、いろいろな感想が多数寄せられた。

【講話の内容】

子どもたちを取り巻く自然・社会環境が変化している。昔の「子ども文化」は、おにごっこやかくれんぼをして感情表現が豊かだった。地域社会の中にも、子どもの役割があった。現代は、テレビ・ゲーム・パソコン・スマホ等の「メディア文化」となり、親にもメディア依存が見られる。

子どもたちの問題状況

①ストレスを抱えている　　②基本的な生活習慣が身に付いていない
③社会性の欠如　　④自尊感情の低下
⑤倫理観が育たない
⑥孤立を恐れる → いじめの問題（例）川崎の上村君事件
・加害者たちは、命をどう感じていたのか
・加害者たちは、共感性が育まれていない

道徳教育は、すべての教育活動を通じて自律性や自立性、自他の生命を尊重する心を育てる。**共感力や想像力を育むことが豊かな心、生命を大切にする心につながる。**

雪の中で娘を抱きしめ凍死した父親のニュースを見ながら、家族で話をする。3.11関連のニュースでは、悲しみは消えないが人間には前に進む力ももっていることを語る。震災後の混乱にも関わらず、日本人の秩序を守る姿は世界から賞賛されたように、日本人は昔から感性が豊かで、その優しさや想像力、秩序などはＤＮＡに残り受けつがれている。

【参加した保護者からの感想】

☆命を大切にする心を育てるためには、家庭環境・地域環境が大きく関わっていることを実感しました。

☆命を守るためにもいじめのない世の中であってほしいと思いました。

☆家でも、もっと命というのは大切で一度の人生しかないのだということを伝えていかなければと思いました。

☆「共感性を育てる」と考えれば、すぐに心掛けられそうなことが思い浮かびます。自分が感じたことを伝える。まずそこから始めてみようと思います。

☆命は一度なくしても蘇るという考えをもっている小学生のお話は衝撃的でした。命に対することを家庭でも真剣に取り組んでいこうと思いました。

☆親の考えを押しつけるのではなく、寄り添いながら命の大切さに気付けた時は褒め、生きていることを喜び合える親子でありたいと感じました。

### ⑸　立腰教育の取組（西那須野中学校区小中一貫教育）

立腰とは、「骨盤を立てて、尻を後ろに出す」姿勢のことで、立腰の姿勢により体が整うと、心まで性根の入ったものになるという考えに基づくものである。

立腰教育とは、腰骨をいつも立てて曲げないようにすることにより、自己の主体性の確立をはじめとした人間形成を実現するとされ、実践を通じて相手を思いやる心や物を大切にする心もはぐくむことをめざして取り組んでいる。

◎立腰教育の柱◎
1　腰骨を立てる姿勢
2　あいさつ・返事の徹底
3　はきものや身の回りのものをそろえ後始末をする（整理整頓）

◎立腰の効果◎
1　やる気がおこる
2　集中力がつく
3　持続力がつく
4　行動が俊敏になる
5　内臓の働きがよくなり、健康的になる
6　精神や身体のバランス感覚が鋭くなる
7　身のこなしや振る舞いが美しくなる

腰骨を立てる姿勢

授業の始めと終わりのあいさつや集会活動時などに、「気を付け」や「注目」の号令のかわりに「立腰」というかけ声であいさつをする姿勢を意識することにより、集中することができ、けじめのある態度が身に付いてきている。

あいさつ・返事の徹底

【地域の方々とのあいさつ運動】

はきものや身の回りのものをそろえ、後始末する（整理整頓）

【くつそろってるねキャンペーン成果】

### ⑹「ピンクリボン運動」の取組（西那須野中学校区小中一貫教育）

中学校や近隣小学校と連携し、いじめ撲滅のための取組として「ピンクリボン運動」を行い、児童の意識付けを図っている。中学校の生徒会が主体となり、いじめをしない、許さないという決意の証としてピンクのリボンを常に胸につけていじめをなくそうと始まったものである。全校生が名札につけて過ごしている。

【人権集会でピンクリボン運動の説明をする中学生】

## Ⅴ　研究の成果と課題

### 1　成　果

○全校体制で組織的に研究を推進することによって、教師の道徳教育に対する意識が高揚し、道徳の時間の展開にも様々な工夫が見られるようになった。職員室での話題も、道徳教育に関するものが多くなり、指導力の向上にもつながっている。

○これまでの国語との違いに悩むような心情追究のみの授業、教師対児童のやりとりが中心の分かりきったことを言わせる授業から、児童同士が考えたくなるようなテーマ性のある授業をめざすための指導方法の工夫・改善について考えられるようになった。

○ねらいにせまるためのよりよい指導方法を検討し、道徳的価値の自覚を深めるための授業展開を工夫することができた。資料のもつテーマを中心として、場面ごとの発問から資料の主題にせまるテーマ発問を考えることで、児童の問題意識や話合いの方向性が明確になった。児童も、資料だけの感想にとどまらず、自分事として大きく捉え、自分自身を振り返って見つめることができるようになってきた。

○自分の意見をもってから、ペアでの話合い、３人・４人のグループでの話合い、それから学級全体での話合いという段階を経ることによって、全員が自分の考えを表現し伝え合うことができるようになった。また友達の意見を聞くことで自分とは違う考え方があることが分かり、「どれがいい」ではなく、「どちらもいい」という考え方の幅が広がり、お互いのよさを認識しながら話し合うことができた。

○児童の実態や保護者・教師の願いから道徳教育の重点内容項目を決定し、道徳教育全体計画を見直したり、別葉Ⅰ・Ⅱを作成したりしたことによって、すべての教育活動の中で関連づけて道徳性をはぐくむ意識が高まった。特に、全校生での学校行事において、児童が道徳的な側面からのめあてをもって臨み、行事後に振り返りをすることによって学校全体としての道徳性の向上に効果があった。

○学校における道徳教育の取組を、様々な形で保護者に伝えることにより、学校と保護者や地域が連携して子どもたちの道徳性を育成していくことの大切さが認識され、道徳教育への関心や意識が高まった。

○児童の意識調査の結果から、道徳性の向上が見られた。特に、「道徳の時間の勉強がためになる」「自分にはよいところがあると思う」の項目で伸びが見られたことは、教師が検討を重ねて工夫改善してきたことが児童の意識の中に変化をもたらした結果として、教師の自信と励みとなった。

### 2　課　題

○児童一人一人が、ねらいにせまって考え、道徳的価値の自覚を深めることができたかどうかの評価は、とても難しい。発言やワークシートへの記入により見とれる部分もあるが、話すことや書くことが苦手な児童に対しての評価の方法も検討していかなければならない。また、ワークシートの形式や他教科のようなノートの導入・活用などについても引き続き検討していきたい。

○発問を吟味し、できるだけ児童の活発な話合いの時間をとりたいとは考えているものの、やはり教師が話している時間がまだ長い。児童の話合いを中心した「議論する道徳」への変容のために、更に指導方法について研修を重ねていきたい。

○資料分析の仕方、板書の仕方は、様々な方法がある。資料を教師がどのように捉え、どこでどんな価値に迫りたいかを検討し、押しつけではなく児童の問題意識にそって自然に考えられるような展開を工夫していきたい。また、視覚的に捉えやすい構造的な板書の仕方についても考えていきたい。